

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2010_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172500247-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2010_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172500247-00&amp;PrEfCd=21&amp;VerSi.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成24年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2月になると開設より9年目を迎え、利用者の高齢化・重度化が進んできました。しかし、今も変わらずホームの中庭には季節の花が咲き、ベンチに腰かけてゆったりと過ごす時間がある。畑では野菜や果物がなり、一緒に収穫しその日の食事でいただきます。季節の行事(花見・紅葉)にはご家族を誘い、一緒に楽しんでいます。年2回の大きなイベント、夏祭り・クリスマス会では多くのご家族に参加いただき、盛り上がりがあります。家族会は年に1回開催して、ほとんどの家族が集まり、今思っている事や要望など多くの意見を聞くことができます。地域ボランティアには積極的に来ていただき、生け花教室・書道教室・コーラス・大正琴・リコーダーなど楽しい時間を過ごしています。地域参加を積極的に行った所、運動会・地域防災訓練・文化祭・盆踊りなど多くの交流ができました。医療に於いては主治医である内科医、歯科医、精神科医と常に連携を取り素早い対応ができる体制が整っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「ひまわりの笑顔」を目指し、利用者が、家族が、地域の人が笑顔で暮らせるように、職員自らも笑顔で接することを心がけている。事業所の行事では、地域にも呼びかけ、家族の協力で何時も和気あいあいと楽しんでいる。家族会では、活発な要望や意見を出て、運営に反映させている。地域住民は協力的で多くのボランティアの訪問があり、手作業したり、歌ったりと馴染みになり交流が深まっている。利用者の健康面では、認知症専門医を提携医にし定期的な診療を受けている。事業所の方針として終末期ケアにも取り組み、提携医と連携しながら、利用者・家族の要望に応じている。管理者は人材育成に力を入れ、自ら講師となり、毎週勉強会を行い、事業所及び職員の質の向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であってもその人らしい生活が送れるようにケアの向上をスタッフが意識して実践につなげる。理念を意識できるよう仕事の始まりに復唱している。	事業所独自の運営理念を作っている。職員間で話し合いより具体的にした、利用者・家族・地域住民・職員が笑顔(ひまわりの笑顔)になることをめざし、日々、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前より継続し、地域ボランティアと毎月一緒に活動している。地域住民から誘われ、防災訓練、盆踊り、幼稚園や学校行事、文化祭への展示など、積極的に参加できるようになってきた。	地域のボランティア(書・コーラス・生花など)を受け入れている。地域へは防災訓練・神社清掃・文化祭への出品などに積極的に参加し交流している。散歩などで馴染みになり、近隣住民から野菜や古新聞を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの講習会や会議に関する相談などを積極的に受け入れるように会社全体で努めている。運営推進会議では認知症についての課題や情報提供にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流について、町内である行事に参加できるよう話あった結果、防災訓練・盆踊りなど地域交流が増えた。利用者に参加を願ひし、参加して頂いた結果、行事がどうだったかなど、より詳しく話ができるようになった。	地域行事への誘いを受けたり、事業所行事の感想などの意見をもらい運営に反映している。防災については毎回話題として上がり、地震時家具が倒れない方法などについて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行う研修などに参加し、意見交換したり、福祉高齢化窓口などに出向いたときに情報の提供を行い連携体制を築くようにしている。	広域連合のサービスケア会議に出席したり、困ったことなどを相談したり、事業所の運営について等、情報交換したりして積極的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示してある。所内研修などを通じて全職員が認識するようになっている。前回の課題を踏まえ、月に1度検討会をし、行動に移した結果、四方柵などほとんどの拘束を排除できた。家族へ説明をし、身体拘束排除に取り組んでいる。	身体拘束、虐待について研修を行い、弊害について理解している。4方柵については検討を重ね、なくすことができた。しかし、胃ろう抜去のため、安全面を考慮し夜間のみ拘束衣を使用している。検討会議を定期的に行い、拘束しない取り組みを行っている。	身体拘束ゼロをめざし、今後も職員間で話し合いを行い、拘束しない取組みを続けてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や所内研修で、虐待について職員が勉強し、職員同士で虐待行為がないかお互いに話し合い虐待を見逃さない。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度について研修などを通じて学び利用者に必要な選択を提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営理念・説明文書をホーム内に張り出している。運営理念、説明文書を入居者および家族にすべて説明し、理解・納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度3施設長会議にて、各施設報告、意見交換、要望を検討する機会が設けられている。家族会は年1回全家族に参加していただき、意見交換・要望などを聴く機会を作っています。運営推進会議などを通じ今後の運営の改善に努めています。	家族の訪問時に要望や意見を聞いている。年1回実施の家族会では、ターミナルケアについての要望や意見が出ている。要望や意見は法人の3施設長会議で検討して、要望に答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングの時に職員から意見・要望を聴いて、運営に活かしていけるよう努めている。	職員全員参加の会議を月1回行い、意見や提案を聞いている。提案を受けて、入浴リフト・リクライニング車椅子の購入や床の補修工事などを実施している。また、行事開催時の勤務体制についても柔軟に対応し、働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ずつを評価し、各自が向上していけるようにそれぞれに仕事を分担している。評価の高いものには給与面などで反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修スケジュールを立てて、職員のスキルアップに努めている。それぞれの職員にあった研修を受けてもらい、資格を取得した場合、手当をだしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、会を通じて、様々な研修、勉強会に参加している。安八郡介護サービス連絡会など参加し、意見交換する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人・家族の不安、困っている事、要望を聴き、できるだけ希望がかなえられるよう、安心してホームで暮らしていけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、本人・家族がどのような不安や悩みを抱えていて、どんなサービスを要望されているかを聞いて、納得していただけるサービス提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族には面談前後に施設を見学していただきわからないことはその都度、質問していただいています。また、生活全般での困りごとがある場合はそれぞれの行政機関に繋げるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして喜怒哀楽を共にしていける関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出の他にも、行事と一緒に参加していただく事で家族の時間を過ごしてもらっている。毎日の様子は写真を見たり、報告したり職員がパイプ役となり支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の喫茶店・公園・スーパー・行事などに行ったとき、知り合いに合い話をしたりする事もあり、外出の機会を持てるよう支援している。知人・友人・親戚など、気軽に来て、ゆっくりお茶を飲んで過ごしていただいている。	利用者が馴染みのある地元の喫茶店・公園・スーパーなどに出掛け、店主や客と話ができるように支援している。神社参拝・法要・葬儀などの参加の要望にも対応している。手紙の宛名書きや電話の取次ぎをして馴染みの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人が孤立しないように努めている。利用者同士仲がいい利用者、そうでなくても支えあい関わりあっている。スタッフは見守りながら、時には間に入ったりし良い関係が築けるようにしている。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できる様に窓口を設けてある。また他のサービスを受けようと要望されるときには情報提供して、今後の生活の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は何を希望しているか、普段から耳を傾けて、計画の中に取り入れながら支援しています。困難と思われる希望、意向はそれに代わるものがないか模索しながら検討しています。	日常の会話や1対1の入浴時などに話を聞いている。困難な場合は、表情を読み取ったり、家族からの意見を聞いたりして把握に努めている。職員本位にならないよう注意し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族、かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活状況、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることができるようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンの情報収集から、把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は、医師、看護師などと相談しながら支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度関係者が気付いた事、意見などを出し合い、介護計画に結びつけています。様態、要介護度が変わればその都度モニタリングを実施して介護計画を作成しています。	定期的に介護計画の評価を行い、見直しをしている。見直し時には再度アセスメントを行い、本人、家族の希望や医師の意見を聞き、担当者会議を開いている。状態変化時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬確認などが記録されています。記録することにより気付いた事を職員間で情報を共有して介護計画に結びつけます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出(お葬式など)、買い物、通院(提携医以外)などそれぞれに必要な時に、本人、家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様と連携を取りながら、盆踊り、運動会、文化祭への出品、地域のボランティアの受け入れなどいろんなことに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院、精神科医、歯科医などとの協力しながら、往診、通院の体制が整っています。本人、ご家族様の要望でかかりつけ医で診察を受けられるように支援しています。	提携医がかかりつけ医だった利用者が多く、継続して診察を受けている。定期的な訪問診療があり、急な場合は、看護師が同行受診している。受診結果は記録に残し共有している。精神科医や歯科医などの往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変が見られた場合、些細なことでも職場内の看護師に伝え、必要となれば診察を受けられる体制が整っています。緊急時も速やかに受診できるよう支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告をして、早期退院に向けて病院関係者と話し合える関係づくりに努めている。入院中も本人の様子を把握するなど支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の要望にそえるよう医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。様態が急変した場合はその都度対応策を検討しながら支援します。	契約時に事業所の方針を説明している。状態の変化時には本人・家族・医師・看護師と話し合い方針を確認している。終末期には同意書を取り、看護師を中心とした支援体制を整えている。職員は定期的に研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの研修を受けたり、看護師からの施設内研修を実施したりして、職員全員に周知しているが、継続して研修会を行って、実践力を身につけるように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、スプリンクラー、通報装置を設置している。年2回夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施し、運営推進会議で地域の方の協力もお願いしている。地震対策として3日分の食糧と水を備蓄している。	夜間避難マニュアルを作成し、年2回夜間想定避難訓練を行っている。管理者は災害時介護技術研修を受講し、職員に伝え対策を講じている。しかし、訓練に地域住民や消防団員の参加を得ることができなかった。	災害時には地域の協力は欠かせない。地域住民や消防団員と一緒に定期的に実施してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性や思いを尊重して、その人に合った支援を心がけています。人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。	排泄や入浴の介助時など、場面に応じた言葉かけや対応について社内研修を行い、利用者の誇りを損ねない支援をしている。不適切な対応の時は、管理者が職員にさり気なく、注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択を用意して本人に決定していただけるように支援しています。食事メニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店など個々に決定できるようにしています。認知症の重度化により自己決定できない方については職員本位にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日の体調や気分などで本人の気持ちを大切にしながら、1日を自分のペースで自由に過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるように支援しています。お出かけする時や、行事など自分で化粧される方や、職員が化粧したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備などで、モヤシの根の除去、芋の皮むきなど積極的に行ってもらっています。食後の下膳も職員の見守りで、各自できるように支援しています。お盆や食器拭きなど片付けの作業も願っています。	下膳をしたり、漬物を作ったり、もてる力を活かしている。職員の声かけなどで会話を楽しみながら、ゆったり食事をしている。正月には一人ひとりのお重にお節料理を職員と一緒に詰めて、お祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量は1000cc～1200cc補給できるように工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者には栄養補助食品などで補いながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨きをしていただき、職員が確認しています。就寝前に義歯をは外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入欄を設け排泄ごとにチェックして排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けし、オムツの枚数を減らすように努めています。専門家による講習会を開きオムツのあて方やその人に合ったオムツを考えたりしています。	排泄用具の業者を呼んで、おむつの種類・機能・用途・介助方法などについて、新しい情報を学習し、利用者ひとり一人に適したおむつ・パットを選び、不快感をなくす支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り、食事、おやつなどで乳製品の摂取しています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師の指導を受けています。また体操をしたり、適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週3回以上入浴して頂いています。入浴時間は決めています。入浴前には拒否される利用者も入浴すると楽しんでいい気分になります。できる限り、着脱衣・洗髪・洗身が自分でできるよう支援している。	利用者の希望の入浴順や温度にしている。重度の方は2人介助でリフト浴を行い、状況に応じて足浴やシャワー浴、清拭で対応している。若い時の話や温泉旅行など、一人ひとりに合わせた話をし、ゆっくり入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、昼寝、就寝ができるように支援しています。不眠、昼夜逆転等がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、日付、飲み残しがないかを確認します。職員が一人一人の服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し、適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ喜びを普段の生活から把握してその人に合った支援をしています。カラオケ、塗り絵、お経、散歩などその人に合った楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。最近ではぬかを用意し、自分で畑まで野菜を取りに行き、漬物を漬けてみんなにふるまっていたきました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に行きたい所を聴いて、外出を計画して出かけています。家族にも参加していただけるように努めています。1人1人を希望に沿ってお連れする事は出来ないが、できるだけ希望にそえるよう努力しています。希望で多いのは喫茶店で、コーヒーを飲みに出かけます。	車椅子の利用者も一緒に日常の散歩に出かけている。神社参拝や近隣の人と挨拶や会話をし、道端のつくしや花を摘んで持ち帰っている。中庭にテントを張り、手植えの花を見ながらお茶を楽しんでいる。セラピー犬も仲間の一員となっている。	

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にに合わせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族に届くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見る方、窓から花を眺めたりして過ごされる方など配置場所を考えています。日時がわかるよう日めくりカレンダーをめぐってもらっています。季節の飾りや、季節の歌、行事の写真などを壁に張っています。	日めくりカレンダーをめくるのは利用者の役割としている。壁には行事写真や、季節の歌詞を掲示して歌うことを日課としている。畳の部屋は「ひまわりレストラン」と名づけて、家族と食事をしたり、お茶会をするなど自宅のような環境を作る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室には自由にカーペット、椅子など持ち込んでいただき、気の合った利用者、家族と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、又思い出のもの写真などを自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中過ごせるように工夫しています。	写真や絵画・花など趣味の物を、その人らしく飾った居室と、すっきり整理した居室など一人ひとりの居心地よい居室となっている。夜間使用のポータブルトイレは昼間は屋外に出している。入り口のガラス戸には、好みの暖簾を掛け夜間の灯かりをさえぎる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の一つ「もてる力が発揮できるよう」と掲げてあるように利用者の身体状況に合わせて、安全また生活の質が低下しないよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2172500247		
法人名	株式会社介護社希望が丘		
事業所名	グループホーム神戸ひまわり		
所在地	岐阜県安八郡神戸町加納178		
自己評価作成日	平成24年10月29日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172500247-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/1/index.php?action=kouhyou_detai_2010_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172500247-00&amp;Pr ef Cd=21&amp;Versi onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年12月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2月になると開設より9年目を迎え、利用者の高齢化・重度化が進んできました。しかし、今も変わらずホームの中庭には季節の花が咲き、ベンチに腰かけてゆったりと過ごす時間がある。畑では野菜や果物がなり、一緒に収穫しその日の食事でいただきます。季節の行事(花見・紅葉)にはご家族を誘い、一緒に楽しんでいます。年2回の大きなイベント、夏祭り・クリスマス会では多くのご家族に参加いただき、盛り上がります。家族会は年に1回開催して、ほとんどの家族が集まり、今思っている事や要望など多くの意見を聞くことが出来ます。地域ボランティアには積極的に来ていただき、生け花教室・書道教室・コーラス・大正琴・リコーダーなど楽しい時間を過ごしています。地域参加を積極的に行った所、運動会・地域防災訓練・文化祭・盆踊りなど多くの交流ができました。医療に於いては主治医である内

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症であってもその人らしい生活が送れるようにケアの向上をスタッフが意識して実践につなげる。理念を意識できるよう仕事の始まりに復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前より継続し、地域ボランティアと毎月一緒に活動している。地域住民から誘われ、防災訓練、盆踊り、幼稚園や学校行事、文化祭への展示など、積極的に参加できるようになってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの講習会や会議に関する相談などを積極的に受け入れるように会社全体で努めている。運営推進会議では認知症についての課題や情報提供にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流について、町内である行事に参加できるよう話あった結果、防災訓練・盆踊りなど地域交流が増えた。利用者に参加をお願いし、参加して頂いた結果、行事がどうだったかなど、より詳しく話ができるようになった。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行う研修などに参加し、意見交換したり、福祉高齢化窓口などに出向いたときに情報の提供を行い連携体制を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除」スローガンを提示してある。所内研修などを通じて全職員が認識するようにしている。前回の課題を踏まえ、月に1度検討会をし、行動に移した結果、四方柵などすべて拘束を排除できた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や所内研修で、虐待について職員が勉強し、職員同士で虐待行為がないかお互いに話し合い虐待を見逃さない。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各制度について研修などを通じて学び利用者に必要な選択を提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営理念・説明文書をホーム内に張り出している。運営理念、説明文書を入居者および家族にすべて説明し、理解・納得されるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度3施設長会議にて、各施設報告、意見交換、要望を検討する機会が設けられている。家族会は年1回全家族に参加していただき、意見交換・要望などを聴く機会を作っています。運営推進会議などを通じ今後の運営の改善に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングの時に職員から意見・要望を聴いて、運営に活かしていけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ずつを評価し、各自が向上していけるようにそれぞれに仕事を分担している。評価の高いものには給与面などで反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修スケジュールを立てて、職員のスキルアップに努めている。それぞれの職員にあった研修を受けてもらい、資格を取得した場合、手当てをだしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、会を通じて、様々な研修、勉強会に参加している。安八郡介護サービス連絡会など参加し、意見交換する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、本人・家族の不安、困っている事、要望を聴き、できるだけ希望がかなえられるよう、安心してホームで暮らしていけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する前に、本人・家族がどのような不安や悩みを抱えていて、どんなサービスを要望されているかを聞いて、納得していただけるサービス提供に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族には面談前後に施設を見学していただきわからないことはその都度、質問していただいています。また、生活全般での困りごとがある場合はそれぞれの行政機関に繋げるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は家族の一員であったり、生活を共にするパートナーとして喜怒哀楽を共にしていける関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出の他にも、行事と一緒に参加していただく事で家族の時間を過ごしてもらっている。毎日の様子は写真を見たり、報告したり職員がパイプ役となり支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の喫茶店・公園・スーパー・行事などに行ったとき、知り合いに合い話をしたりする事もあり、外出の機会を持てるよう支援している。知人・友人・親戚など、気軽に来て、ゆっくりお茶を飲んで過ごしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者のそれぞれの個性を把握して、その人が孤立しないように努めている。利用者同士仲がいい利用者、そうでなくても支えあい関わりあっている。スタッフは見守りながら、時には間に入ったりし良い関係が築けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談できる様に窓口を設けてある。また他のサービスを受けようと要望されるときには情報提供して、今後の生活の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は何を希望しているか、普段から耳を傾けて、計画の中に取り入れながら支援しています。困難と思われる希望、意向はそれに代わるものがないか模索しながら検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況をご家族、かかりつけ医、関係者等から情報収集を行い、既往歴、生活状況、性格などを把握し、入居者情報に記録して、今後のサービスに繋げることができるようになっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活パターンの情報収集から、把握しています。また、心身状態など専門知識などが必要な場合は、医師、看護師などと相談しながら支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に1度関係者が気付いた事、意見などを出し合い、介護計画に結びつけています。様態、要介護度が変わればその都度モニタリングを実施して介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者の生活状況、バイタル、排泄、水分量、食事摂取量、服薬確認などが記録されています。記録することにより気付いた事を職員間で情報を共有して介護計画に結びつけます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出(お葬式など)、買い物、通院(提携医以外)などそれぞれに必要な時に、本人、家族の状況に合わせて柔軟な支援をします。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様と連携を取りながら、盆踊り、運動会、文化祭への出品、地域のボランティアの受け入れなどいろんなことに積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は提携医として、病院、精神科医、歯科医などとの協力しながら、往診、通院の体制が整っています。本人、ご家族様の要望でかかりつけ医で診察を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に異変が見られた場合、些細なことでも職場内の看護師に伝え、必要となれば診察を受けられる体制が整っています。緊急時も速やかに受診できるよう支援します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職場内の看護師を中心として、入院前の利用者の症状、様子などを医師に報告をして、早期退院に向けて病院関係者と話し合える関係づくりに努めている。入院中も本人の様子を把握するなど支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の要望にそえるよう医師・看護師・介護士等が話し合いターミナルケアにも取り組んでいる。様態が急変した場合はその都度対応策を検討しながら支援します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの研修を受けたり、看護師からの施設内研修を実施したりして、職員全員に周知しているが、継続して研修会を行って、実践力を身につけるように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、スプリンクラー、通報装置を設置している。年2回夜間想定避難訓練、消火訓練、通報訓練を実施し、運営推進会議で地域の方の協力もお願いしている。地震対策として3日分の食糧と水を備蓄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの個性や思いを尊重して、その人に合った支援を心がけています。人生の先輩であることを職員が自覚して声掛けにも注意しながら支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろんな選択を用意して本人に決定していただけるように支援しています。食事メニューに意見を取り入れたり、買い物・喫茶店など個々に決定できるようにしています。認知症の重度化により自己決定できない方については職員本位にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日の体調や気分などで本人の気持ちを大切にしながら、1日を自分のペースで自由に過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日の始めに鏡の前で身だしなみを整えてもらえるように支援しています。お出かけする時や、行事など自分で化粧される方や、職員が化粧したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備などで、モヤシの根の除去、芋の皮むきなど積極的に行ってもらっています。食後の下膳も職員の見守りで、各自できるように支援しています。お盆や食器拭きなど片付けの作業もお願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量は1000cc～1200cc補給できるように工夫しながら支援しています。栄養摂取量が少ない利用者には栄養補助食品などで補いながら対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自身で歯磨きをしていただき、職員が確認しています。就寝前に義歯をは外し洗浄剤に漬けておきます。歯科医師、衛生士の指導の下、チェックして適切な治療を受けています。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の記入欄を設け排泄ごとにチェックして排泄パターンを把握し、定期的にトイレ声掛けし、オムツの枚数を減らすように努めています。専門家による講習会を開きオムツのあて方やその人に合ったオムツを考えたりしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り、食事、おやつなどで乳製品の摂取しています。排泄の記録を確認しながら、便秘が続けば医師の指導を受けています。また体操をしたり、適度な運動も進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに週3回以上入浴して頂いています。入浴時間は決めています。入浴前には拒否される利用者も入浴すると楽しんでいい気分になります。できる限り、着脱衣・洗髪・洗身が自分でできるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた時間で起床、昼寝、就寝ができるように支援しています。不眠、昼夜逆転等がある場合は、日中の活動を工夫したりしています。深刻な場合は医師と相談しながら改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には、必ず名前、日付、飲み残しがないかを確認します。職員が一人一人の服薬ファイルを確認できるようになっています。万が一誤薬があった場合、看護師に報告し、適切な判断を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみ喜びを普段の生活から把握してその人に合った支援をしています。カラオケ、塗り絵、お経、散歩などその人に合った楽しみ方で気分転換が図れるよう支援しています。最近ではぬかを用意し、自分で畑まで野菜を取りに行つて、漬物を漬けてみんなにふるまっていたきました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に行きたい所を聴いて、外出を計画して出かけています。家族にも参加していただけるよう努めています。1人1人を希望に沿ってお連れする事は出来ないが、できるだけ希望にそえるよう努力しています。希望で多いのは喫茶店で、コーヒーを飲みに出かけます。		

グループホーム神戸ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力にに合わせて要望があれば所持できるように支援しています。必要なものがあれば職員と共に買い物ができるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をかけられるように支援しています。年賀状なども書いていただき家族に届くように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間にはゆったりと腰掛けられるソファが配置されテレビを見る方、窓から花を眺めたりして過ごされる方など配置場所を考えています。日時がわかるよう日めくりカレンダーをめくってもらっています。季節の飾りや、季節の歌、行事の写真などを壁に張っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の居室には自由にカーペット、椅子など持ち込んでいただき、気の合った利用者、家族と気軽に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの、又思い出のもの写真などを自由に飾っていただき、その人らしい雰囲気の中過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理念の一つ「もてる力が発揮できるよう」と掲げてあるように利用者の身体状況に合わせて、安全また生活の質が低下しないよう工夫している。		